

西田昌司参議院議員による沖縄戦の実相を否定・歪曲する発言に対する抗議決議

本年 5 月 3 日、那覇市で開催された憲法シンポジウムにおいて、自民党の西田昌司参議院議員が、沖縄戦と「ひめゆりの塔」の展示について「歴史の書き換え」「むちゃくちゃな教育」などと発言した。これらの発言は、沖縄戦における体験と記録、特に戦禍に巻き込まれ犠牲となった多くの学徒たちの尊厳を否定するものであり、決して看過できない。

沖縄市は、沖縄戦において日本軍の司令部が一時期置かれ、周辺地域では熾烈な戦闘が展開された地域である。本市にも多くの戦没者が眠っており、遺族や体験者、その子や孫に至るまで、沖縄戦の記憶は今も人々の生活の中に深く根付いている。

ひめゆり学徒隊をはじめとする多くの若き命が、国体護持を掲げた日本軍の作戦の中で、十分な説明もないまま戦場に駆り出され、避けられたはずの死へと追い込まれた事実は、戦後の証言、遺品、研究を通じて明らかになっている。

西田議員の発言は、これらの積み重ねを「書き換え」と一方的に決めつけ、沖縄の歴史教育や平和学習の根幹を揺るがす暴言である。

沖縄市議会は、多様な出自と歴史を抱える沖縄市民の声を代弁する機関であり、平和に関する宣言や条例を掲げ平和都市として戦争の悲惨さを忘れず、平和の尊さを次世代に伝えていく目的を掲げる本市にとって、「命どう宝」（命こそ宝）の理念を次世代へ引き継ぐことは責務であり、沖縄戦の事実を「なかったこと」にする言説には強く抗議せざるを得ない。

西田議員は会見において一部発言の撤回を口にしたが、発言の核心部分に対する真摯な謝罪や反省は未だなされておらず、極めて不誠実である。

戦後 80 年を迎える今、なお戦争体験者や遺族は深い悲しみとともに真実を語り継いでいる。西田議員は、ひめゆりの塔やひめゆり平和祈念資料館を訪れ、沈黙の中にある声に耳を傾け、自己の発言の重みと影響を直視すべきである。

よって、沖縄市議会は再び沖縄を戦場にさせないという不動の決意を改めて表明するとともに、西田昌司参議院議員に対し、以下の事項を強く求める。

記

1. 沖縄戦の史実を正しく認識し、その歪曲や否定につながる発言を厳に慎むこと。
2. 沖縄戦で犠牲となったすべての人々とその遺族、証言者に対し、真摯な謝罪を行うこと。
3. 今後、歴史的事実に基づく発言と行動を通して、平和を希求する国会議員としての責任を果たすこと。

以上、決議する。

令和 7 年 6 月 4 日
沖 縄 市 議 会

宛 先

西田昌司参議院議員 石破茂自由民主党総裁